

平成30年度第1回白馬村図書館施設検討委員会 議事録

日 時	平成30年6月15日（金）午後2時から午後3時40分まで		
場 所	白馬村保健福祉ふれあいセンター学習室		
	役職名等	氏 名	出欠
委員長	社会教育委員会委員長	富山 正明	出
副委員長	図書館協議会会長	小林 英雄	出
委員	太田一級建築士事務所	太田 史彦	欠
委員	前白馬村教育委員会教育委員長	塩島 弘之	出
委員	しろうま保育園保護者代表	石山麻衣子	出
委員	白馬幼稚園保護者代表	中澤小百合	出
委員	白馬北小学校 PTA 会長	武藤 慶太	出
委員	白馬南小学校 PTA 会長	渡部 虎史	出
委員	白馬中学校 PTA 会長	太田 具英	出
委員	白馬北小学校校長	木下 政道	出
委員	白馬南小学校校長	倉科 浩美	出
委員	白馬中学校校長	田中 守	出
委員	公募委員	小川由美子	出
委員	公募委員	長島 律子	出
委員	公募委員	高橋 英子	出
事務局	生涯学習スポーツ課長	関口 久人	出
	生涯学習スポーツ係長	柏原 英司	出
	生涯学習スポーツ課主幹	下川 貴彦	出
	図書館司書	松沢由美子	出
委員以外 の出席者	なし		
傍聴者	なし		
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. あいさつ 4. 自己紹介 5. 協議事項 （1）図書館施設の建設について （2）今後の日程について （3）その他 6. 閉会		

1. 開会

柏原係長が開会を宣言した。

2. 委嘱状交付

役職により変更のあった委員に委嘱状を交付した（机上交付）。

3. あいさつ

（関口生涯学習スポーツ課長）4月から人事異動でお世話になることになりました。各学校の代表の皆様には委員として委嘱させてもらった。今日新たなスタート。お忙しい中役をお受けいただき、感謝。検討委員会は白馬村教育委員会の諮問機関とし、あり方や整備について検討いただき教育委員会に結果を報告いただくところ。いろんな意見をいろんな角度からいただきたい。子どもも、国民みんなが活字離れ・読書離れといわれるなか、身近な図書館の活用できたらと。10年後の在り方をイメージした視点からの意見を。こんな施設でこんな取り組みを、といった奇譚のないご意見をいただき、力添えをお願いします。

（富山委員長）今年度また教育委員会の顔ぶれがかわったが、昨年夏からはじまったこの委員会、今年からいよいよ基本構想という形で取りまとめに入る。昨年は村民の意見を様々聞いた。今年はずっと具体的に。これと並行して有識者会議もあるが、この場では、図書館だけに絞って、図書館のあり方、村民の求めるものを村民の立場から皆さんに伺う。今年度4回の予定。中身の濃い議論をお願いしたい。

4. 自己紹介

5. 協議事項

議事の進行は規定により委員長が行った。

（委員長）社会教育委員の富山です。それでは議事を進めます。新しい委員が半分なので、昨年度の委員会の内容と経過の説明を事務局よりお願いします。

（下川）資料より説明した。

（委員長）これについて疑問点や意見などありますか。

（委員）検討委員会の報告書の中に2月の役場職員向けワークショップの内容が書かれていないので教えてほしい。有識者会議の1回目の会議はいつごろか。毎回この会議の最初に思うことですが、人事異動のたびに協議会が遅々として進まない。公募の3人は同じだけど、事務局の方も変わる。元に戻るんじゃないくて、もっとマイナス。建設するのであれば、異動のなかでも、本気度を示してほしい。

（下川）役場職員向けワークショップの内容について、資料により報告した。

（委員長）まあ、けっこうさまざまな意見が出ている。役場の職員として、という感じではなかったですね。一般の意見の感じ。一般の方のワークショップとプラスαという感じで。

（関口）有識者会議は発足し、副村長が中心に会議をすすめる。図書館施設検討委員会は図書館のことを中心に考えていただく。有識者会議は複合施設を考えるもの。担当は総務課になる。さきほど見て頂いたスケジュールでやっていく。村のやる気度だけはみていただきたい。異動は、どうしてもあまり長くいられないということがあって、今年、かなり動いてしまっただけで申し訳ないと思う。村全体としての本気度はご理解いただきたい。

（委員長）直接担当の下川さんには今までの経緯をよくチェックしていただき、0からではなく、積み上げて、よく理解したうえで始めていただきたい。新しい委員さんもいるのでちょっと後戻りの説明も出てくるがこれを土台に次にすすめたい。

（委員）有識者会議の日程・メンバーは？

（下川）まだ決まっていない。村内や遠くの人の可能性もある。予定では8月に第1回を開催。

（委員長）花井さんのプレゼン資料も見たい。出せない？決まっていたのなら花井さんに今日見ていただきたかったが。

（下川）契約は今週に行った。この会議には時間が合わなかった。

（委員長）花井さんには今までアドバイス等をいろいろいただいていたが、今年からは作っていく作業、より形をつくっていく。次回は来ていただいて、経緯や我々の関わりをききたい。回数が限られているので、なるだけ前倒しで進めてほしい。今後の予定、花井さんから資料はもらえるか。

（下川）業者としては決定して、検討委員会も支援してくれることになっている。お願いできると思う。

（委員長）総務課と話をして情報を共有して出せる資料は全部出してほしい。ここで縦割りなんてことを絶対しないようにお願いします。役場全体としてやるんだってことを肝に銘じてお願いしたい。

（委員）参考までに。プレゼンに参加した業者は他にいたのか。

（関口）4社です。だいたいいくらぐらいの金額でってことで会社ごとに提案してもらい、選考委員会で日本カルチャーデザイン研究所に決定した。

（委員長）（選考委員として）参加したのは？

（関口）副村長２人と各課長が選考委員となる。

（委員）前々から興味があった会社。いいところに決まったと思って、大賛成。ユニークな人材がそろっているところ。普通の人達の考え付かないような感覚をもっている人たちの集合体なので、どんな考えが出るのか、発信できる情報は出してほしい。

（委員長）これからは仕事としてかかわってくるので、もっと出してくれるものもあるだろう。今までは花井さんだけだったが、これからは会社としてかかわるので、どういう方についていただけるのか、うかがって。違う方のお話とか聞ければ。早い段階でまたワークショップもあるだろうし、話をきく機会もあるだろう。意見を聞いて我々が肉付けして。期待をこめて。

（委員）私たちは図書館施設に限定して検討しますよね。有識者会議は複合施設としてという言い方でしたが、今まで複合施設がいいかってことは出ていたが、村としては道の駅とか、ちらほらでているようだが、有識者会議としてはそういうことも視野に入れて検討されているのか。

（委員長）いろんな意見がある。複合がよいのかどうかということから検討するかたちでしょう。検討委員会がすごく重要で、有識者会議を優先で場所やそっちのほうの便利さに行ってしまうと本末転倒。基本的に図書館から始まっている話なので、図書館が使いやすいものであることが一番の条件。それを忘れないでって言っている。我々検討委員会から強く意見を出していかないと。そっちに吞まれてしまわないように。向こうの意見で決まってしまうことがなきにしもあらず。私はそれを恐れている。皆さんからの村民からの強い希望、どうするのが一番いいかをいただきたい。道の駅の話だとずれてくるかなと、私としては考えている。他の案もあるだろう。そちらへの興味もある。おそらく役場から提案が出て、有識者会議で検討していく形になると思う。それを受けてこちらでも検討することになるだろう。キャッチボールというか、せめぎ合いというか、こちらは図書館をよいものにしたい、メリットがあるなら複合もよし、まだ本当のところはわからない。可能性としてはいくつかあるみたい。道の駅といっているのは村長。すみません、ぶっちゃけ言っちゃって。

（委員）予算がつくことから複合という考えもあるのか。

（委員長）あると思う。お金をもってくる時何かとくつつける時、よりお金を持ってこれるって部分もある

（委員）それに流されるとただ建物がふえるだけではないか、何も機能しないんじゃないかと村民は見透かしていると思う。

（委員長）それが箱もの行政の一番悪いところ。建てちゃえばいいじゃんというのは古い話。

（委員）それを役場の方に分って頂けるといいものができるんじゃないか。

（関口）そのための有識者会議。役場で勝手に決めるんじゃなくて専門のかたが入っていたくなくで。

（委員）専門的な方だからこそ図書館のことがわからない方が多くて。

（関口）図書館のことは図書館検討委員会の答申を尊重して検討するってのが根本の部分なので、こっちの答申が遅れてしまって向こうが早まっちゃった部分があるんですけども。一時的に重なっている状態。本当はここで答申が出て、検討委員会にその答申をもって、複合施設の検討いただくようになればいいんですが向うも早まってるし、一時的に一緒になるんだけど、ここの意見は図書館の部分は優先されると考えています。

（委員）その言葉を信じて。

（関口）だからより具体的なものを出していただければいいのかなと。

（委員長）予定では（有識者会議の委員に）私は入ります。流れないように釘をさします。この検討委員会の意見は尊重して向かっていきたい。有識者会議の方も図書館のことはわからなくても、さきほどの時代遅れの話は皆さん分かってる。図書館をどう生かしていくかってことで複合を考えていく。

（委員）こういう出てくるような言葉が、この会議ではいっぱい出てくるのでお祭り騒ぎをしたいというわけではなく、ここでは図書館の話でありながら、本の話が出ていない。今の時代らしい。この言葉だけで行くとただ楽しいものを求めるだけの様に錯覚しやすいので危険だなというのがちょっとあって。それを上手に伝えていくのが・・・。

（委員長）去年までは漠然としたイメージで。本の話は基本なので、当たり前だからあえて触れてなかった。今年からはそのことも。本の内容や施設の内容も抑えながらまとめたい。本だけで言うと話が全部おわってしまうし、新しい図書館のイメージができない部分もあってちょっとおいたけど。これからは本の話もしないと。冊数やスペースなども。最初の時に資料でほかの図書館の一覧表があったかと。館長も決まってくればそういう話もするはず。去年までは図書館に人が足を運ぶにはどうするかという話をしたかな。足を運んでもらって、そこで本に出会う。映像資料とかに出会う。

（委員）どういう答申を出すのかったのが、ちょっと見えてきた。答申は「日本カルチャーデザイン研究所」（以下CD研）の基本構想をみて出すのか、この検討委員独自のものか。

（委員長）最終的なところは業者の基本構想が最終的なもの。それをつくる中でこの検討委員の意見、答申をそこに盛り込んで反映して、業者の構想が出る。村に最終的に出すのは業者の基本構想。図書館の中身のベースは、ここの答申。答申が先に出てそれを受けて年度末に基本構想がある。

（委員）図書館建設の基本の考えは、基本構想の中にあるってことですね。

（関口）基本構想があって基本設計が、面積的なものとか建物の設計の最初の段階。

（委員）予算規模がある程度見えてこないと考えようがない。夢のようなことを言ってもはじまらない。給食センターもそうだったけど予算がある程度見えてないと。いつの段階でどのように見えてくるのか。今年度は予算のこととか考えずに話し合うのか。

（関口）まだ予算のことは言えない。複合施設についても同じことが言えて、こういうものああいうもの、とはいっても夢物語になってしまう。総務課で調整して、財政と今後の村の予算立てについて、どのくらい出せるんだ、後年度負担というものは当然出てくる。1回借金することになるので。図書館+複合として村の一般財源としてどのくらい出せるか、総務課で検討することになっている。どこかのタイミングで出るとは思っているが詳しくは出てこない。検討委員会としては必要な、譲れない部分、多少譲れる部分をあげてもらってもいいんじゃないか。

（委員長）まずは、私としては出せるものは出そうと思う。もちろんすべては叶えられるものではない。最初は夢物語。予算規模が出て、何をやめれるのかと考えたい。始めから予算規模に合わせようとするうちっちゃくなってしまう。こういうものはあったほうがいい、必要だ、というものがあつたなかで、その規模をどうするか。ここではなるだけ出せる意見を出していただいたほうがいいかな。秋くらいに予算が出たら、細かくは分からなくても何にお金をかけて、何を節約するか。％的な比重を出せたらいいんじゃないか。必要不可欠なもの、まあ必要なもの、あつたらいいな、くらいのも、と分けられれば。そうすればいろんな意見が出ていいのかな。そして具体化していく。思うことはどんどん言っていただいて。それを形にしたい。

（委員）願いをいろいろ出した結果、CD研でまとめていただけるってことでいいんですね。そのためにお金を払ってるんですよ。私たちは細かいことを考えなくても希望を出して、基本構想を見て、また考えるチャンスはあるわけですね。

（委員長）基本構想まで出なくても我々からなげかけて資料を作ってもらうこともできる。

（委員）あまり難しい事までは考えなくていいんですね。

（委員長）それは我々がやったって無理。CD研の経験があるので、キャッチボールしながら進められると思う。ここでは忌憚のない意見をいただくかたちにして、打ち合わせしながら、まとめてもらったものを、皆さんで検討。

（委員）ここに保護者や学校関係者がいてくれるのはありがたい。図書館プラスカフェ、つていうようなことは今の時代、ありがちな発想なんですけど、自分も子育てで図書館つかったときに、意外に帰りがらないとか、本に囲まれたスペースって特殊で、中学校のワークショップに行った時も意外に、しっかり自分で思う図書館像を口にして、いいなと思った。今日のこんな話をいきなりきかされてもきょとんとしてしまうだろうけど、実はお子さんとかかわる中で、すごく大事な役割のすごく大事なところで、たまたま役員として来ていらっしやるだろうけど、図書館で、できることがいっぱいあって最初は親が連れて行かないと、関心がない話になりがちなキーワードが図書館。いろんな育ち方の通過点の一つとして図書館を役立ててほしい。今日のこんな、予算とかきかされてもきょとんとなっちゃうじゃないですか。

（委員長）施設となれば、どうしてもお金ってなっちゃうんだけど。やはり中身。どうしたらもっと利用してもらえるか、使いやすいものになるか。ワークショップなんか積極的に来てくれる人じゃない人、図書館は勉強するところだから関係ない、という人たちもいるし、そんなに利用する人いないんじゃないのって意見もある。できたって行かないんじゃないって人もある。まず行ってみようよみたいなものにしたい。読書時間、大学生が何%だか、一カ月の読書時間が0。中学生くらいまではほぼ親しんでいる。ところが高校くらいになってくると忙しくなって本から離れる。大学生になってぜんぜん読まない人がいて、けっこう衝撃的。こどものときはまだ親しんでいるけど、その後はどうつながっていくかが図書館の役割。これからは高齢の人がいる場所というのも最近重要になっている。行く場所がなくて閉じこもっていた高齢者が図書館ができて、毎日のように通っているという事例もある。そういう方が増えるのが実際でしょう。前から、公園の話があつて。子連れで行けるような、集まれるような所が村にはないという話があつた。うまく仕掛けが出来れば。

（委員）去年のワークショップは関心のある人たち、言いたいことがある人達は来てくれた。去年、宗川委員が幼稚園のアンケート取ってきてくださって、来ない人たちのなぜ来ないのかの意見も、とってきてくださった。学校、PTAの皆さんには、出てきてくれない人の意見を吸い取ってきてほしい。

（委員長）学校の図書館って、けっこう使われているか？中学ってこのあいだ行った時、結構使っているとか。

（委員）昼休みが。

（委員）本という媒体からは離れているが、いろんなツイッターとかの媒体でわりと文章を読んでいる。今の時代の子たちはそれを「読む」というかんじ。ある程度歳をとってくると

本のある環境に戻りたくなる、手触り感を求める。戻れる場所があると帰ってくる。本を読まないわけではなく、個人が発する物語を読むという時代背景。いわゆる「読書」という感覚ではなくとも、読んでいる時間はあったりしている。

（委員長）どうつなげるかってのも、課題なんでしょうね。われわれはデジタルだと疲れちゃってしんどいんだけど。子どもたちは慣れているから。

（委員）本を持ち歩くのでなく、アプリのなかに本が入っている。それをふまえて、図書館がなにをできるかを考えて作ったらいいと思う。

（委員長）デジタル媒体への対応は課題。昔は図書館で調べたものをいまはネットで。ただ、そのへんは学校でも教育されてると思うし、ネットですべてわかるわけじゃない。図書館を通じて教えていると思うけど、図書館へいくともっと違う世界があるよということが分かるような。たとえば1つのことを調べるのに本1冊がある、ひと言項目を調べる。ネットでは辞書のように内容がだーっと出る。実際それだけでは1冊の本ができていないものもあり、それが奥深いものを教えてくれることもあるってことを知ってほしい。それをどうつなぎ合わせていくか運営の中でも考えていく必要。図書館へのイメージをかえていくというか、違ったとらえ方もある。自習場所と思っている人がいたりとか。それだけで思っているともったいない。今、北小のお子さんたちはあそこの図書館に行っているみたいだけど、行くといろんなものがあるって分かる。まず行っているろんなものを見てみるとおもしろいかな。こないだ読んだ本では児童図書が実は子供だけでなく大人も分かりやすい。子どもに分かる本はわかりやすい。子供向けの事典とかってすごく作る方も難しくて、土台のない子どもたちにわかってもらうための本作り。大人にも分かりやすい、そんな利用の仕方もおもしろいと思った。そういったことも含めて考えると深みが出てとっつきやすくなる。

（委員）2年くらい前に、「百馬力」のグループの活動の中で図書館のことを話した。100人くらい集まり、花井さんもいらしてプレゼンテーションをやって、白馬にどんな図書館が必要か、みんなで考えた。図書館を作りたくて集まった人たちではないけど、なにか、よくしたいという思いで集まった人。高校生も60、70代の人も。グループごとのアイデアを出した。今ここに集まった人たち以外の意見を取り入れてもらえたらいい。仕切ったのは原田さんという方でしたが、そういう人たちとうまくつなげたら議論も活発になるのでは。図書館で、ただ勉強する場所だから関係ないよねって考える人って少ないと思う。集える場所っていいなと漠然と思っている人たちってたくさんいると思う。うまく具体的にしていきたいと思います。

（委員）自分もそこに参加した。そこで、ここだけではだめだなと思った。できることに限りがあるなと思って、公的な立場も必要だと思ってこの公募に応募してみた。そのときは百年先まで考える集まりだった。村民は深く考えている。そういうことを伝えたくて来た。ベースになる声をどんどんあげて、引き出していけたらいい。中だるみすることなく、そういう話をしたい。

（委員長）意見を吸い上げる場は必要だと思うし、1月のワークショップ、意外と集まってくれた。おもしろい意見もあった。その思いをなんとか反映するものができれば。あんまり来ない方、あれば行きたいと思ってる方、こんな場所なら行きたい、いろいろな方の意見を吸い上げるってのは、これからやるし、CD研の人も考えてるだろう。こちらからも提案し、そういう人の話を吸い上げて、機会をつくって、関心が深まれば連鎖的に、利用につながるのでは。より広めたいな。このごろ、おかげさんでってのもへんですが、村民の中で「図書館つくるらしいね」っていろんなところで聞くようになってきている。関心をもってもらって、行きやすい図書館というものを形にできれば。

（委員）今日ここで話して分かったことはこういうことをやっていくことと、自分たちはそれぞれの立場からいろいろ言うべきでしょうが、今日は言えなかった。今度の会は骨子をいれてほしい。自分は学校として個人としても思いはあるが、次は学校としての思いを言えればいいんだと思った。作っていくときに大事なのは、村民の皆さんに、過程を見せながらアンケートをとったりして、オープンしたときに「ああ、私たちの言った意見がどうなったのか」という経路をつくることが重要。そういうことを話し、項目立ててほしい。ワークショップのイメージって一般的なもののなので、白馬ってものを分かりやすく、コンパクトにしてもらって出してもらって、会議の協議事項をもっと細かに示してほしい。

（委員長）次回もう少しまとめてもらおうと。2回目は学校の方も話をいただくなかで、より具体的な話をしたい。たとえば、どういう施設的なものが必要なのか、どういうものを中心におくのか、どういったものがあればいいか、ご意見を伺いたい。皆さんも、よその図書館を調べてみて、どんなものがあつたか、こんなところを真似できないか、持ってきてほしい。

（委員）校長先生たちに校内の司書の話聞いてきてほしい。学校図書館ではできないけど公共図書館ならできるって思ってることってないか。図書室の動きからの声でいいと思う、ぜひ声を届けてほしい。

（委員長）学校司書さんからの意見もあるだろうし、学校との連携もこれから必要になるので、希望があればうかがいたい。今も少しは、やってるだろうけどもっと充実させたい、とか。運営面のこともあるだろうし、施設的な事もあるだろうし、話が多岐に渡ってしまうが整理しながらお願いしたい。

（委員）建設場所って、2回目以降具体的に決める？

（委員長）決めるってことではないですけど、ある程度、こらへんっていうようなことは。

（委員）こういうところが望ましいっていうような？山が見えるとか。例えばこういうところはどうかっていうような提案があるわけではない？

（下川）こちらからは提案はない。あまり言ってしまうとそこにかたよってしまうのかわつてことがあるので委員の皆さまで決めていただきたい。

（委員）希望的な事で。利便性がいいとかそういう条件をまとめた方がいいですね。

（下川）例えば「山が見える」っていえば、まわりに建物があまりないような所とか。そうすれば限られてくるだろうしそのあたり、詰めていただければ。

（委員）私は保育園の役員ですが。幼稚園だけアンケートを出したってことなのか。保育園にはそういうアンケートがなかったと思う。

（委員長）前任者が積極的に動いてくれたってことだけど、保育所でもやってもらえそうならお願いしたい。子どもにというよりお母さんだろうか。

（委員）自分はここにいるのも悪いくらい、図書館に行っていない。母親は毎週行くのが当たり前くらい、私も連れて行ってもらったんですけど、自分が母親になってからたぶんここ1回くらいしか利用しなくて、最初は場所もわからないくらいだった。子どもを連れて行けるようなスペースもそんなにないし、保育園や支援ルームも時間も限られてる。周りにも図書館行く人、いない。一人の人がリピートしてるんだと思う。調べても本がないとか、あの施設の中に置ける本って、限られてるだろうし。来ない人の意見って大切だと思う。保育園でもアンケートをやってみたい。行きたいけどいけない人もいるし、活字離れもあるだろうし、家に本もないし全然読まない自分だけど、偶然でもこの会に参加してるのでやる以上は「読まないから読まないから作りたくない」ではなく、やるからには、行かない来れないっていう人がなにをすれば行きたくなるのか、読む人はいいいけど自分のような読まない人、どうでもいいといえどどうでもいいって人もいると思うけど、村の図書館すごくなくなったねって言われるようなものになれば、1回くらい行ってみてもいいなって思ってもらえるように協力していきたい。かかわった以上は、プラスの方向にいけるようになればいい。

（委員長）そういう視点でアンケートとってください。ナマの意見ってありがたい。関心のある人の意見で、だいたい同じよう。ない人の意見を。

（委員）白馬ってこういう方いっぱいですよ。そのままですよ。

（委員）今日は勉強のつもりで、言い方悪いけどあて職で来ている。いろんなコミュニティがあつて、スキーとか教育の延長とかいろんな考え方があつてすごく大事。図書館とどう組み合わせて活用できるか。たとえばスポーツ医学や方法論も進化してるし、たとえば子どものスキーチームになにかテーマを与えて、図書館で調べてみることで活用を推奨するとか。当社スキー場に貴重なスキー雑誌をいただき、「思い出のライブラリー」をつくりました。どういうふうにしたらスキー場にきてもらえるか、考えてやっている部分もあるので、さきほどの北小校長先生のご意見のようにキーワードをわけていただけると。これは自分たちも

手を出せるな、これは専門知識ないなという、次の準備もしやすいかな。スキー場からのシャトルバスも、スキー場だけのものじゃなく、コミュニティのバスとして関連付けられないかな。すれ違いの中でやると費用も手間もかかる。自分の関係する、持ち合わせている知識についてはできるだけお話したい。

（委員）息子がフリースタイルをやっていて、絵本が小さい時から好きで、感性をスポーツだけでなく、本もスポーツもってなかで、見せ方を考えていて、競うことには興味はないんだけど、どう自分をみせるか、感覚の部分を磨くうえで、教えられないものを自分で見つけることがあった。スポーツをしている人にも図書館って、役に立つところがある。建築専門のかただと、こういう話はでない。

（委員）読書の習慣がへっているかっていうと、それは関係ないってことがPTAの話で出たし、活字には親しんでいるし、いろんな感性を持ち合わせの中で図書館がどう入り込んでいけるかを考えていこうかな。

（委員長）そろそろ時間。次回に向けて、皆さんの立場からでるご意見をいただきたいし、具体的な、今みたいなスキーとのかかわりとかコミュニティのかかわりとか。

（委員長）次回からは整理してポイントを決めてお話をうかがい、もう少し具体的な形に。

（委員）次回の予定は？

（下川）有識者会議のあと、その報告を兼ねて行いたい。8月か9月になる。

6. 閉会

委員長が閉会を宣言した。